

伊丹市幼児教育ビジョン 骨子（案）

I. 現状と課題

1 これからの幼児教育

- ・遊びを通じた学びであるという幼児教育の基本を認識していくことが必要である。
- ・新幼稚園教育要領等で示された10の視点は方向性であり、評価基準ではない。保育をする上で、また発達を見る上でのポイントである。
- ・子どもたちが将来生きていく上で、どのような力をつけていくのか、どのような力が必要なのか、どのような方法がよいのかといったことを、特に幼児期の教育はどうあるべきかについて考えていかなければいけない。
- ・伊丹市幼児教育ビジョンを通して、改めて幼児教育について示し、市全体で共有する必要がある。
- ・伊丹市の特色として、公私立幼稚園・保育所・認定こども園が共に、幼児教育を担っていくことが、より良い幼児教育につながる。

2 本市の幼児教育の現状

〈子どもの実態について〉

- ・与えられたことはできるが、自分の思いを主張することが苦手である。自主性はあるが、主体性は難しい。
- ・相手の気持ちを読み取る、察することが難しく、周りや相手をどう想像するかというところが必要である。
- ・子ども自身が自分の中で限界の線引きをし、達成感や成就感はどうあるべきか。
- ・テレビ、ゲーム、スマホ等を使い、友達と遊ぶのではなく、一人で遊ぶことが増えている。
- ・泥んこや虫取りなど自然の中で遊ぶことや友達と体を動かして遊ぶことが少ない。
- ・運動能力の低下、集団の中でルールを作って遊ぶこと、我慢したりすることが苦手な子どもが多い。
- ・基本的な生活習慣が身につけていない子どもが多い。
- ・一方、遊びの場で積極的に人の手助けをしたり、順番を守るなどの規律を守ったりする子どもの姿も見られる。

〈子どもを取り巻く背景について〉

- ・食べることができない貧困ではなく、親が子どもに関わる力が弱く、愛着関係の乏しさや経験の差などが見られる。
- ・ボール遊びのできる公園がない。
- ・シーソー、ブランコなどの遊具がない公園が増えている。
- ・近所の友達と遊ぶ経験が少ない。
- ・働く保護者も多く、孤独な方も多いのではないかと。近所付き合いも疎遠な方が多いのではないかと。

- ・子どもの課題は大人の課題ではないか。大人はどのようにかかわり、どのようなことを大切にするのか、大人自身が確かめていくことが必要である。
- ・子どもの対する大人の関わり方、見方、保護者の子育てに対する知識の弱さが見られる。
- ・子育ての仕方を伝えることも園が担っていく時代である。
- ・危ないこと、転ばないようにするために等、便利という名のもとに子どもたちが自分たちで工夫できないような環境を作っている。

Ⅱ. 幼児教育の基本理念と育てたい子ども像

[基本理念]

- 子どもは愛されて育たないといけない。この度、新幼稚園教育要領等で示されている10の視点等も、愛情のベースの上に育ってくるものである。
- 子育てしやすいシステムを作るだけでなく、愛とかそういった部分をどのように伝えていくのか。
- 基本的に愛され、人を愛することは素敵なことだと思えるように子どもを育てたい。
- 大人から子どもへの愛情だけでなく、子ども同士、仲間同士の愛情が必要である。

[育てたい子ども像]

- ・楽しい我慢力
- ・自尊感情

Ⅲ. 質の高い幼児教育について

1 取り組むべき教育の質

(1) 幼児期に必要な経験

(2) 幼児期にふさわしい環境

- ・子どもがのびのびと遊び、様々な経験ができる場
- ・望ましい子育てができる環境、具体的な場の提供
- ・自治会等のコミュニティの場

(3) 保育者の質の向上

- ・子どものあるべき姿を保護者に具体的にしっかりと伝え、子育ての方向性を示す必要がある。
- ・保護者同士の子育てに対する、子どもの育ちに対する共通理解を市全体でできるよう、発信する。
- ・「遊びを通して学ぶ」幼児教育について、具体的に保護者がわかるように伝えていくことが必要である。

2 伊丹のよさを活かした幼児教育

(1) 伊丹の自然・文化とは

- ・伊丹市は山や谷があるというわけではないが、人と共生する自然環境を大切にしている。歴史もある。

(2) 伊丹のよさを活かした教育